

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム ねたろう		
所在地	山口県山陽小野田市大字福田949-1		
電話番号	0836-79-0575	事業所番号	3577700184
法人名	有限会社 大昇		

訪問調査日	平成 21 年 2 月 17 日	評価確定日	平成 21 年 6 月 4 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 9 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人 非常勤 4 人 (常勤換算 7 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺	造り
	2 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 35,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
その他の費用	月額	16,000 円		
	内訳	光熱水費 11,000円	日常生活費	5,000円

(4) 利用者の概要 (2月17日現在)

利用者数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
	要介護 1	2	要介護 4	1	
	要介護 2	4	要介護 5	1	
	要介護 3	1	要支援 2		
年齢	平均 84.5 歳	最低	67 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 山陽小野田市民病院 歯科 早川歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

民家を改修され、ゆったりとその人らしく生き生きと生活できるように支援されています。農村地域の中で、地域コミュニティを大切にされ、地域向け広報誌の配布や地域アンケートを実施され、地域の方も、耕運機を寄贈されたり、ホームの草刈や利用者が地域行事に参加しやすいように外出のお手伝いなどをしておられ、地域とよい関係を築きながら交流されています。

(特徴的な取組等)

入浴は、毎日午前8時頃から18時までの希望する時間帯に入浴でき、リフト浴もされています。朝食は、利用者の起床時間に合わせて、5時30分から7時30分まで可能にされています。利用者の突発的な外出希望にも可能な限り対応し、個別に買い物や散歩に出かけられるなど、常に利用者寄り添った支援をされています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

全職員がミーティングで検討しています。理念は、半年間かけて職員の思いを話し合っておりあげています。地域ボランティアの導入、応急手当等の定期的な訓練の実施など、改善に取り組みられています。

(今回の自己評価の取組状況)

評価の意義について理解し、全職員で話し合い、管理者がまとめて作成され、サービスの質の向上に活かしておられます。

(運営推進会議の取組状況)

2ヶ月に1回開催し、メンバーは、自治会長、民生委員、福祉委員、老人会メンバー、第三者委員、市介護保険課職員、利用者、家族、施設職員等で、状況報告、地域アンケート報告、外部評価報告、地域からの情報などで意見交換をし、サービスに活かしています。

(家族との連携状況)

毎月発行のホーム便りに写真や請求書を添えて送付し、面会や電話等では、日々の様子を伝え、意見や要望を聞くようにされています。

(地域との連携状況)

自治会に加入し、広報誌の配布や地域アンケートを実施し、地域の理解を得よう努めています。地域の方も、耕運機の寄贈、野菜の育て方指導、ホームの草引き、地域行事への協力などされています。利用者は、夏祭りやお大師様、ドンド焼きなどの地域行事に参加したり、散歩などで地域の人と交流されています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期 待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	全職員で話し合い、「お互いを認める寛容さを持ち、歩みを共にし、地域社会の中で安心して自分らしく生きる事が出来るよう支援する」などの理念をつくりあげている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎月、ミーティングで理念について話し合い、唱和し、職員が共有し、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、夏祭りなどの地域行事への参加、広報誌の配布、地域アンケートを実施している。お米や野菜などの差し入れもあり、ぬり絵などのボランティアも訪れて交流している。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員は、評価の意義を理解し、自己評価や外部評価を活かして、サービスの質の向上を目指して取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	定期的開催し、自治会長、民生委員、福祉委員、老人会メンバー、第三者委員、市職員、利用者、家族等のメンバーで、状況報告、地域アンケート報告、外部評価報告などで意見交換を行いサービスに活かしている。	
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市地域包括支援センターとは、問い合わせや課題の相談などで行き来し、解決策などを共有してサービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月発行のホーム便りに写真や請求書を添えて送付し、面会や電話等で、日々の様子や健康状態を報告し、意見や要望を聞いている。家族の参加行事も少ない。	・家族への報告の工夫 ・家族との交流の検討
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時や電話、運営推進会議等で家族の意見や苦情を聞き運営に反映している。苦情相談窓口、担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情対応マニュアルを作成して苦情処理手続きを定めている。意見箱は玄関に設置している。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤5名、非常勤4名を確保し、利用者の状況や要望に柔軟に対応できるようにしている。職員の急な休みには、話し合いで勤務調整している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職を必要最小限に抑える努力をしている。新規採用職員は、約1～2ヶ月間の研修期間を設けて重複勤務をして利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務に支障のない範囲で外部研修や内部研修に参加できるよう、勤務の一環として計画し実施している。職員は、資格取得のための学習も意欲的にしており、働きながらのトレーニングを行っている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会や支部研修会等に参加し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>サービス利用前に1週間程度ショートステイという形で利用してもらい、本人、家族が安心して入所できるよう配慮している。馴染みにくい場合は家族と相談しながら工夫している。</p>	
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>生活歴を把握し得意なものは手伝ってもらい、天ぷらの衣つけ、お皿洗いなどを一緒に行いながら、喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>入浴時やひなたぼっこ、散歩などでふっともらした会話などをミーティング等で話し合い、利用者の思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族からの情報や表情や動作から汲み取るようにしている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>カンファレンスを月1回開催し、本人、家族、担当者の意見も取り入れて話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3か月に1回見直しをしている。変化が生じた場合は、随時関係者と話し合い、新たな介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>通院の送迎や付き添い、理美容院の送迎、墓参り、温泉、買い物等の支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望を聞き、かかりつけ医への受診が出来るよう情報交換をしながら、適切な医療を受けられるように支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期は、ホームでの対応は困難なので、早期にかかりつけ医や家族等と話し合い、全員で方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように常に気を配って対応し、ミーティング等で話し合っている。記録物は事務室に保管し個人情報の取り扱いに注意している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切に、朝食は起床時間に合わせて、5時30分～7時30分まで自由に食事が出来るようにしている。散歩、買い物、入浴なども希望に添って個別に対応しながら、その人らしい暮らしが出来るよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食ともホームで調理し、利用者の好みや要望に合わせて献立を作り、調理、配膳、後片付けなども出来る人が手伝っている。職員は同じテーブルで同じものを食べながら楽しめるよう支援している。	
24 (64)	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日午前8時から18時頃まで可能で、希望の時間に入浴でき、時々ゆず風呂、入浴剤を入れて楽しんでいる。入浴が困難な場合はリフト浴にし、入浴を嫌がる利用者には、清拭等をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ひなたぼっこをしながら田園風景を日々楽しんでいる。利用者の得意な裁縫、工作、塗り絵などで張り合いをもった生活ができるよう支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、花見、外食、ドライブなど、出来るだけ希望に添って外出が出来るよう支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束については職員は正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は鍵の弊害を正しく理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出を察知したら、職員が同伴している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し、ヒヤリはつと報告書、事故報告書に記入し、ミーティング等で話し合い、再発防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し、ミーティング時にマニュアルを基に定期的に勉強会を行い、応急手当等の訓練も実施している。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、昼間と夜間(18時～)の消火・避難訓練を実施している。今後は地域消防団等の協力が得られるよう働きかけている。自動火災通報システム、自家発電機、食糧等の備蓄をして、不測の事態に備えている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報はファイル化され、職員は薬の目的や副作用、用法や用量をよく理解している。服薬は手渡して確認し、変化が生じた場合は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、個々に応じた歯磨きを支援し、義歯は夜勤者が洗浄液に浸し消毒・保管をしている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスは栄養士にチェックしてもらっている。毎日の食事量、水分量は日誌に記録し、確保できるよう支援している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルに基づいて保健師と勉強会をしている。インフルエンザの予防接種は全員受けている。手洗いやうがいを励行し、ペーパータオルを使用している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	リビングはとても明るく不快な匂いもなく、利用者は快適に過ごしている。壁には今年の干支に利用者の写真を入れた、利用者と職員の合同作品が掲示してあり、棚には美しい花が活けてあり、季節感を感じさせる。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には備え付けのベットと小箆箆があるが、馴染みの物を持ち込んだり、家族の写真や自分で作った作品を飾って、自分の好みで居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム ねたろう
所在地	〒757-0013 山陽小野田市大字福田949-1
電話番号	0836-79-0575
開設年月日	平成14年3月9日

【サービスの特徴】

ゆっくりと時間が流れていくような景色に囲まれた中に「ねたろう」があります。利用者が自分らしく「生きる」「活躍」これを支援してゆきたい。言葉では繋げない想いを想い、考えに考える「生きる」という厳しくもある日々の中で清潔・安全に生活して頂き、安らぎのある添い方を心がけています。

【実施ユニットの概要】 (1月14日現在)

ユニットの名称	グループホーム ねたろう			
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	9名	男性 2名	女性 7名	
	要介護1	1名	要介護4	1名
	要介護2	4名	要介護5	1名
	要介護3	2名	要支援2	
年齢構成	平均 82.7歳	最低 67歳	最高 92歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	職員に自己評価書を事前に配布し、平成21年1月14日職員全員参加のミーティング時に協議検討し評価を実施致しました。
評価確定日	平成21年1月14日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		ご家族に運営委員会へご出席して頂きたいのですがなかなかご出席して頂けない。市の要請でウイークデーと言う事もありますが、呼びかけ等が不十分。
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえよう日常的な付き合いができるよう努めている。		
7 (3)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	自治会の回覧等で一口介護教室のようなものを掲載したり、運営委員会時に認知症や介護支援について相談があった時などお話しています。又、サポートキャラバンメイトに参加している職員もいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全員で行いミーティングで全員で話し合い検討し前向きに取り組んでいます。又、外部評価の結果はミーティングで報告し、改善すべき点などを議題にし、見直し努力している。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	地域の方々の協力を得ながら運用に生かしています。(畑作りのアドバイスをはじめ、「ねたろう便り」のアンケート等を運営委員会の議題にし、話し合いサービスの向上に努めている。)	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	研修の申込やH21年4月改正の介護保険の情報等を聞いたり、支援困難なご家族の事例など地域包括支援センターなどに相談している。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	家族の方と学ぶ機会があったので或る程度理解している。	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員には県及び市発行の虐待防止マニュアルと事業所独自の防止マニュアル等を使いミーティング時に注意を払っている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な時間をとりひとつひとつ丁寧かつ詳しく説明し、家族の質問等もお答えし同意を得ている。又、利用者の状態変化により退所時に対応し、ご説明、相談を行っている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の不満等を聞いた時はご家族に伝え、話し合い対処しています。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月金銭管理等は報告し、来所時に承認を頂いている。又、暮らしぶりや健康状態は来所時にお話し、急ぐ時は電話にて話をしています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	ご家族等から要求があれば、何時でも開示できるよう記録等整理してあります。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	H19年度に第三者委員を設け運営推進会議及び郵送にて苦情処理の手続きをお知らせしました。それ以降入所された方には重要事項の説明に明記しご説明しています。又、運営推進会議で意見等発言の機会や毎月の連絡物で私共の気が付かない事や、ご意見、ご提言、ご相談、苦情等のご発言を促しています。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや普段の仕事の場面等で、気軽に話せるように対話を心がけている。		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者さんの変化で柔軟な対応をとっています。又、職員とは普段より話し合う機会を持ち職員の希望休等や急な体調変化等に対応した勤務体制を取っている。		スタッフの補充ができていないのが悩みです。
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	新しいスタッフは研修期間を設け、利用者さんを知ってもらいスムーズに交代できるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務上支障のない範囲でひとつづつ財団の研修や学習会等へ参加している。		
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	30代～60代の男女職員を配置しています。今まで違う職業だった方、主婦だった方、介護職一筋の方さまざまな経験を積んできたスタッフで対応しています。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域の同業者との研修会や懇親会に参加し、交流を持ち、知らなかった情報を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		休息室が無い、休憩時間がうまく取れない。
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		運営者はその様な評価に努めているが、経済的な面で同業者と声を大きくして介護保険行政の改善に向けて行きたい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		日々の関わりを大切にし、お互い本音が出せるように努力し、コミュニケーションを大切にしている。夜勤時や入浴時など一対一になった時に本音を出してくれるので、その時間帯を大切にしている。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		相談等よく時間を取って対応し、普段からたわいもない会話の中で本音を出してもらい、信頼関係を築く努力をしている。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		相談に応じた対応に努めている。医療に全面的に頼らず、できることはしており、入院、退所時は施設や病院と一緒に探している。
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		本人やご家族にホーム見学をして頂いたり、ショートステイと言う様な形で生活して頂き、ご本人、ご家族が安心して頂けた後、入居という形を取っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		暮らしの中で利用者さんに教えていただく事もたくさんあり、学ぶ事もある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来所、面会時、利用者さんの様子を伝えながら、家族の思い、考えを聞かせて頂き、家族と一緒に悩み、考えていく関係を築いています。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	面会時本人の様子を報告、相談し、ご家族の思いをよく聞きより良い関係を築いていけるよう心掛けている。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人希望の店での買い物、馴染みの美容院に行ったり、お彼岸やお盆に墓参りなど外出支援をしている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	人間関係を考慮したテーブル配置や食事やお茶の時など職員と一緒にとり、一人にならないよう見守っています。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後相談があれば相談にのり、年賀状のやり取り、病院への見舞い、亡くなられた時は献花をしたり、会食等行っている方もある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	平素から利用者と話したり、日々の関わりの中で言葉や表情で気付き把握に努めている。気が付いた時に、スタッフ間で話し合っている。		認知の障害により困難な場面もある。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を利用し最初にアセスメントをしっかり取っているが、生活していく中でご家族も知らなかった事も多々ある。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人一人の生活リズムを理解し支援しています。必要があればデータ(睡眠、トイレ、水分量、血圧、血糖値等)を取りそれによって支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	各担当者が本人や家族から要望を聞き個人にあった介護計画をたてる為ミーティング時に全員で討議し介護計画を作成している。	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者の身体的、精神的変化が生じた場合、介護計画を見直しています。又、短期目標が日々の記録と合わなくなった時、見直しています。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は個別に記録し、介護計画と現状が合わなくなった時、随時見直しています。日誌を読んだら必ずチェックを行っています。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	24時間の認知症対応型でショートはできますが、多機能ではないので限界があります。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員さんは運営委員会によく出席して頂き、それ以外でも来所して下さる事もある。	協力体制が不十分 (以前警察にうかがった際、利用者さんに大きな名札を付けてくださいと言われ、意見の食い違いがあり、話し合いの必要あり)
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	見学は随時受け付けています。但し、利用者さんの状況によって受けられない時もあります。	ボランティアなど不十分
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	利用される方もあるが、金銭的に余裕のある方が少ない。	社会資源を十分に活用していない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>守秘義務の徹底、その人に合った言葉掛けや接し方をし、申し送りやミーティング時意識向上を図っている。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者とのコミュニケーションを大切にし、日々の暮らしの中で、本人の思いを理解するよう努めている。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>本人の力を見極め、その人にできる事をして頂いています。 (洗濯だたみ、食器洗い等)</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>起床・入眠は本人のペースで、一人ひとりの体調に配慮しながら、その時の気持ちを尊重し支援しています。</p>	<p>入浴は毎日ですが、夜間帯はスタッフが一人なので行っていません。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>希望する方は馴染みの美容院等外出支援を行っている。</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者と職員が同じテーブルで食事を摂り、後片付けも一緒に行っています。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>酒やタバコは制限はしていません。但しライターは職員が預かり、タバコは職員の前で吸って頂いている。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄表をチェックしながら、トイレの声掛けし誘導したり、オムツ交換を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。		夜間帯は職員が一人の為、入浴は行っていません。
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		日々の生活の中で手伝って頂いたり、希望があれば外出支援を行っています。(墓参り、美容院、買い物、温泉等)
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		お金の管理のできる方は現在いません。しかし、ご本人がお見舞いやお年玉またお祝い等がしたい時は、お金を渡しています。
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		本人の希望にそって、職員が同伴し戸外へ出掛けています。(買い物、美容院、ドライブ、温泉、散歩、日光浴等)
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		墓参り、温泉、紅葉、花火大会、花見等時間をつくり支援しています。
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		希望があれば電話等取りついでいるが、年賀状や手紙等の希望は無い。
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		面会時間に制限は無く、いつでも気軽に訪問して頂いています。又、宿泊もでき布団も準備しています。
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		布団等を用意していつでも泊まれる様準備はしてあります。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	参加を呼びかけているが、ご家族もご都合があり参加者はほとんど無い。		家族が参加しやすい行事の計画
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	禁止の言葉を使用しないことを心掛け、拘束はしていません。ミーティング時に県や市の防止マニュアルと事業所独自の防止マニュアルを配布し抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75 (28) 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵を掛けていないので出入り自由。ただし、夜間は民家と同様の鍵を掛けている。		
76 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は3人の職員で業務を行いつつ利用者にも目を配り、夜間は1人なので、全員の居室が把握できるリビングに居て利用者さんの安全に配慮しています。		
77 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	カミソリ、ライター等は預り安全面には配慮しています。お針道具やハサミ等を持っておられる方もあります。		
78 (29) 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	薬は個人別の容器に保管し管理している。また、保健士さんや救急救命講習等行って、取り組んでいる。		
79 (30) 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	ミーティング時、急変対応マニュアルの勉強をしたり、定期的に救急救命の訓練を行っています。		
80 再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	ヒヤリ、はっと、事故報告等の案件をミーティングの議題にし、改善策を話し合い事故発生防止に心掛けている。。又、ケアプランに生かしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		夜間での訓練は難しい
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		申し送り等で情報を共有し、対応に対する申し送りもしていません。
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		個人で管理できる方が居ないので、服薬時にご本人の目の前に置き、きちんと服薬したか確認をしている。受薬した薬は処方箋及び薬の説明書を読み利用者に変化があった時には、速やかに医師に相談しています。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		適度な運動や食事の量と食物特に水分に注意し排泄表のチェックを行っています。
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		毎食後声掛けをし、一人ひとりに応じた歯磨きをしている。義歯は夜間洗浄液に浸し支援している。
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		毎日食事量水分量等を日誌に記録し、個人に合わせた支援を行っている。(刻み食、スプーン、箸)
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		保健士さんと一緒に勉強会等を開きマニュアルに添って実行している。インフルエンザは毎年接種、手洗いの励行でペーパータオルを使用、洗面所はいつも清潔にしています。
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		調理器具、台所水回りの清潔衛生を保つようにしています。付近は毎晩漂白冷蔵庫も点検清掃しています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	外見は普通の民家と同じ造りで、利用者も落ち着いて生活し、玄関先にプランターを配し、外にベンチが置いてあるのでお茶を飲んだり話ができる。また、24時間出入り自由になっています。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	リビングから外の景色が見え季節の移り変わりを感じ、畑に植えてある作物の成長も見え収穫し、食べる喜びもある。昔ながらの建物なので戸惑うことなく生活しています。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂兼リビングに食卓の他にソファを置き、また、出窓の所に机と椅子もあり日当たりも良く寛ぐスペースをとっている。縁側にもベンチがあり寛げる様になっています。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自分が使用されたものを持参し、家族の写真を飾ったり、位牌なども持参されている。	家族によっては配慮して頂けない家族もあり、生活になじんで始めて配慮して頂ける。
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	日本家屋のため臭いはあまりこもらない。各部屋にはエアコンを設置、ホール、脱衣場はストーブを使用、毎日2回清掃を行うがその際、窓を開け空気の入換えを行っています。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	トイレや必要な場所に手すりをつけ、光も明るさに気をつけ、風呂の浴槽にはリフトを設置している。	手すり、入浴リフト
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々に合わせた部屋の配置、失敗を防ぐ工夫をし自立できるよう支援している。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	自然がいっぱいで散歩したり、外にはベンチもあり外気浴しながら景色を眺める事もできる。庭には草木が植えてあり、季節折々の花も咲き切花にしてホームや部屋に飾ったりしている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいの	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> 家族の1/3くらいと	<input type="checkbox"/> 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="checkbox"/> ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="checkbox"/> 大いに増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない